

国府台学会経済研究会（第118回）

歴史と経済発展

水野伸宏

研究会開催日：平成22年7月16日

（報告要旨）

私がこれまでに行った研究を紹介するという趣旨で、Mizuno and Okazawa (2009)を紹介させていただいた。本研究は私が大学院生の頃に現在大阪大学（日本学術振興会特別研究員）の岡澤亮介氏と共同で行った研究である。以下では本研究会で発表した本論文の内容を紹介する。

アフリカの低発展に対して多くの実証研究が植民地時代の経験の影響を指摘している。Bertocchi and Canova (2002)は植民地時代の宗主国の搾取が独立後の成長率に対して負の影響を与えることを示しており、またLange (2004)は旧イギリス植民地国において間接統治の程度が強いほど独立後の成長率が低いことを示している。この論文では植民地時代の宗主国の支配体制・政策が独立後の政治経済に対して影響を与えるメカニズムを理論的に提示することを目的としている。

特にこの論文では、アフリカ植民地の多くが間接統治によって支配されていた事実に着目する。宗主国が原住民を支配グループと被支配グループに分け、支配グループを通じて現地住民を支配、搾取、管理する間接統治体制の下で、被支配グループの支配グループに対する信念が宗主国の政策に左右される状況を考える。

モデルの基本的な概要は以下のとおりである。間接統治体制を反映して経済は、宗主国、支配グループ、被支配グループの3種類の主体が存在する。植民地時代 (stage 1) には、宗主国が支配グループを通じて資源を徴収するが、独立後 (stage 2) には、宗主国は退出し支配グループが被支配グループを植民地時代に引き続いて支配する。

植民地時代 (stage 1) には、宗主国は支配グループを使って被支配グループの資源を徴収すると同時に支配グループも宗主国から与えられた権力を背景に、追加的に被支配グループの資源を私的に徴収することができる。支配グループの効用は自らの消費と被支配グループの消費の加重和で与えられ、被支配グループに対するウェイト（以後、利他心と呼ぶ）が小さいほど被支配グループから多くの資源を搾取する。なお、この利他心の程度は支配グループの私的情報であり、被支配グループからは観察できないものとする。

被支配グループからは資源の徴収がどの程度宗主国によるものなのか支配グループによるものなのかを観察することはできないが、奪われた資源の総量は観察できるとする。被支配グループは宗主国がおこなう徴収量に対する事前的信念と観察された総徴収量から支配グループの利他心の程度を推定する。支配グループが被支配グループに対して利他的であるほど支配グループが行う資源の徴収は少なくなるため、資源の総徴収量が大きい場合には、被支配グループは支配グループの利他心を低く推定する。したがって、宗主国の徴収額が大きい場合には被支配グループはそれを支配グループの利他心の低さによるものと

部分的に解釈し被支配グループの支配グループに対する不信感が生まれる。

独立後 (stage 2), 支配グループは政治権力を引き継ぎ, 被支配グループに対して資源の徴収を行う。被支配グループは植民地時代に形成された信念に基づいて支配グループの政策に対して期待形成をおこなうため, 被支配グループが支配グループの利他心を低く見積もっている場合には, 被支配グループにとって厳しい政策がとられることを予想する。植民地時代の宗主国の資源徴収が大きい場合, 被支配グループは支配グループの利他心を低く見積もり多くの資源が搾取されることを予想するので, 過小投資や反乱などの非効率的な選択をとりやすくなる。つまり, 宗主国の圧制は被支配グループの支配グループに対する不信感を通じて独立後の経済パフォーマンスに対して負の影響を与える。

本稿で提示されるモデルは植民地時代に形成されたグループ間対立に由来する内戦, 例えばルワンダにおけるツチ族とフツ族の争いやザンジバルにおけるアラブ人とアフリカ人の対立に対して一つの説明を与えることができる。

以上が本研究会で発表した Mizuno and Okazawa (2009) の内容である。最後に, 本研究会で発表する機会を頂いた事と研究会参加者の非常に有益なコメントに深く感謝する。

主要参考文献

- Bertocchi, G. and Canova, F., “Did Colonization Matter for Growth? An Empirical Exploration into the Historical Causes of Africa’s Underdevelopment”, *European Economic Review*, Vol.46, 2002.
- Lange, M., “British Colonial Legacies and Political Development”, *World Development*, Vol.32, 2004.
- Mizuno, N. and Okazawa, R., “Colonial Experience and Postcolonial Underdevelopment in Africa”, *Public Choice*, Vol.141, 2009.